

常滑市議会 議会運営委員会 視察報告書

1. 日 程 平成 30 年 2 月 5 日 (月)

2. 視察先 及び 調査項目

- (1) 安城市 「議会 I C T 化の取り組みについて」
- (2) 阿久比町 「新庁舎の議場、委員会室等の施設・設備について」

3. 参加者

委員長 富本 健 副委員長 伊奈利信
委員 西本真樹、中村崇春、森下 宏、都築周典、相羽助宣、
盛田克己、川原和敏 (議長)
(随行) 森下賢祐

4. 視察内容

(1) 安城市 「議会 I C T 化の取り組みについて」

平成 28 年 3 月からタブレット端末や会議システムを導入し、ペーパーレス化に取り組む議会を調査研究した。市民に開かれた議会、効率的で迅速な議会運営、議会の活性化などの議会改革を進める中で I C T 化に踏み切った。

◎常滑市への反映

新庁舎建設の計画を進める中で、インターネット環境の整備、議会の I C T 化について検討されたい。

(富本・伊奈・西本・中村・森下・都築・相羽・盛田・川原)

ペーパーレス化による経費について、試算されたい。

(富本・伊奈・西本・中村・森下・都築・相羽・盛田・川原)

◎所感

・地域での活動に利用できる点や市民の要求や質問に対しても迅速に対応できる点など有効に活用している。

(富本・伊奈・西本・中村・都築・相羽)

・市職員も議案や資料などの仕分け作業や資料の差し替え等もスムーズである。(富本・伊奈・西本・中村・森下・相羽・盛田)

・導入について、デメリットが見当たらないという回答を受け、必要性を感じた。(富本・伊奈・西本・中村・森下・都築・相羽・盛田・川原)

・議会の I C T 化は開かれた議会の実現のため、市民への情報発信のため

必要である。(冨本・伊奈・相羽・盛田・川原)

- ・ソフト、ハード面でメリット、デメリットを勉強できた。常滑市は新庁舎建設を進める上でハード面を整備する方向性を定めるべきと感じた。

(冨本・伊奈・中村・森下・都築)



(2) 阿久比町「新庁舎の議場、委員会室等の施設・設備について」

議会フロアを中心に新庁舎、多目的ホールを視察。

議場、議会傍聴席、全員協議会室、委員会室、正副議長室、議員控室、会議室を見学。

◎常滑市への反映

議場を含めた議会フロアは、設計段階から議会の意見を反映できるように進められたい。

(冨本・伊奈・西本・中村・森下・都築・相羽・盛田・川原)

音響、録音、映像設備を充実させた環境を整備されたい。

(冨本・伊奈・森下・盛田・川原)

今後のICT化を視野に入れたインターネット環境を整備されたい。

(冨本・伊奈・中村・都築・相羽)

◎所感

・庁舎全体は立派で余裕のあるスペースであった。(森下・相羽・川原)

・災害対応用のスペースを確保することは必要だと感じた。(冨本・盛田)

・議会フロアが窮屈であり、控室では執務できないと感じた。(森下・川原)

・一般質問の質問者席が設けられており、市民にはわかりやすいと感じた。

(冨本・伊奈・西本・中村・森下・都築・相羽・盛田・川原)

・傍聴席からもわかるようなモニターの設置が必要だと思った。

(西本・中村・森下)

・議会事務局前の議員出退板は見やすく、わかりやすかった。(伊奈・相羽)

・委員会室のマイク、録音、映像機器など設備が整っていた。

(冨本・伊奈・西本・中村・森下・都築・相羽・盛田・川原)

・全議員の控室はあったが、議員の活動を保障するためには会派別の控室も必要と感じた。(冨本・西本・都築・相羽・盛田・川原)

・町長、副町長室が立派すぎた。(冨本・伊奈・中村・森下・盛田・川原)

・常滑市は新庁舎に複合化は断念したが、図書館、文化会館等の複合化に向けて、イニシャルコスト面、利用状況等参考になった。

(冨本・伊奈・川原)

